

# 横浜市インフルエンザ流行情報 11号

横浜市健康福祉局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

## 流行注意報レベルが継続しています

### 【概況】

2023 年第 10 週(3 月 6 日～3 月 12 日)の定点あたりの患者報告数<sup>※1</sup>は、横浜市全体で **10.54** です。2 月以降、横ばいで推移しています。

年齢別では、10 歳未満の報告が全体の 62.1%、15 歳未満の報告が全体の 83.6% を占めています。学級閉鎖等は、第 10 週にて小学校を中心に 35 件、患者数 430 人が報告されています。

今シーズン第 10 週までの市内の迅速診断キットの結果は、累計で **A 型 99.3%**、**B 型 0.6%**、**A・B 型ともに陽性 0.1%**と、A 型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況<sup>※2</sup>では、AH3 型が多く検出されており、横浜市での検出状況も同様です。

今シーズンは、インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症が流行しています。かからないために丁寧な手洗い<sup>※3</sup>や適度な湿度(50～60%)<sup>※4</sup>を保ち、うつさないために咳エチケットを徹底するなど、適切な対策<sup>※5</sup>を行いましょう。

※1 定点あたりの患者報告数とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)から報告された患者数の平均値です。

※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

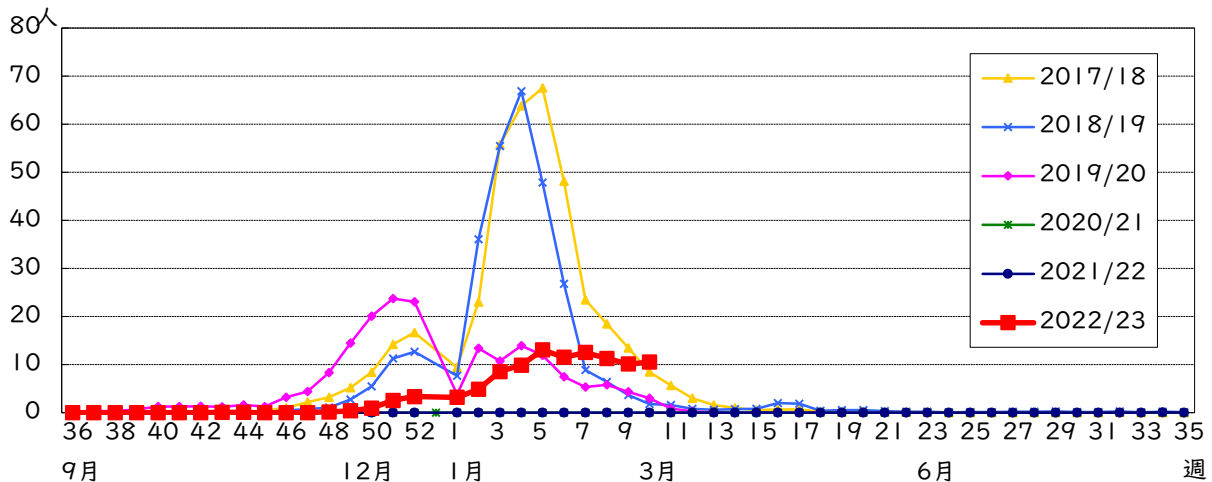
※3 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※4 [令和 4 年度インフルエンザ Q&A\(厚生労働省\)](#)

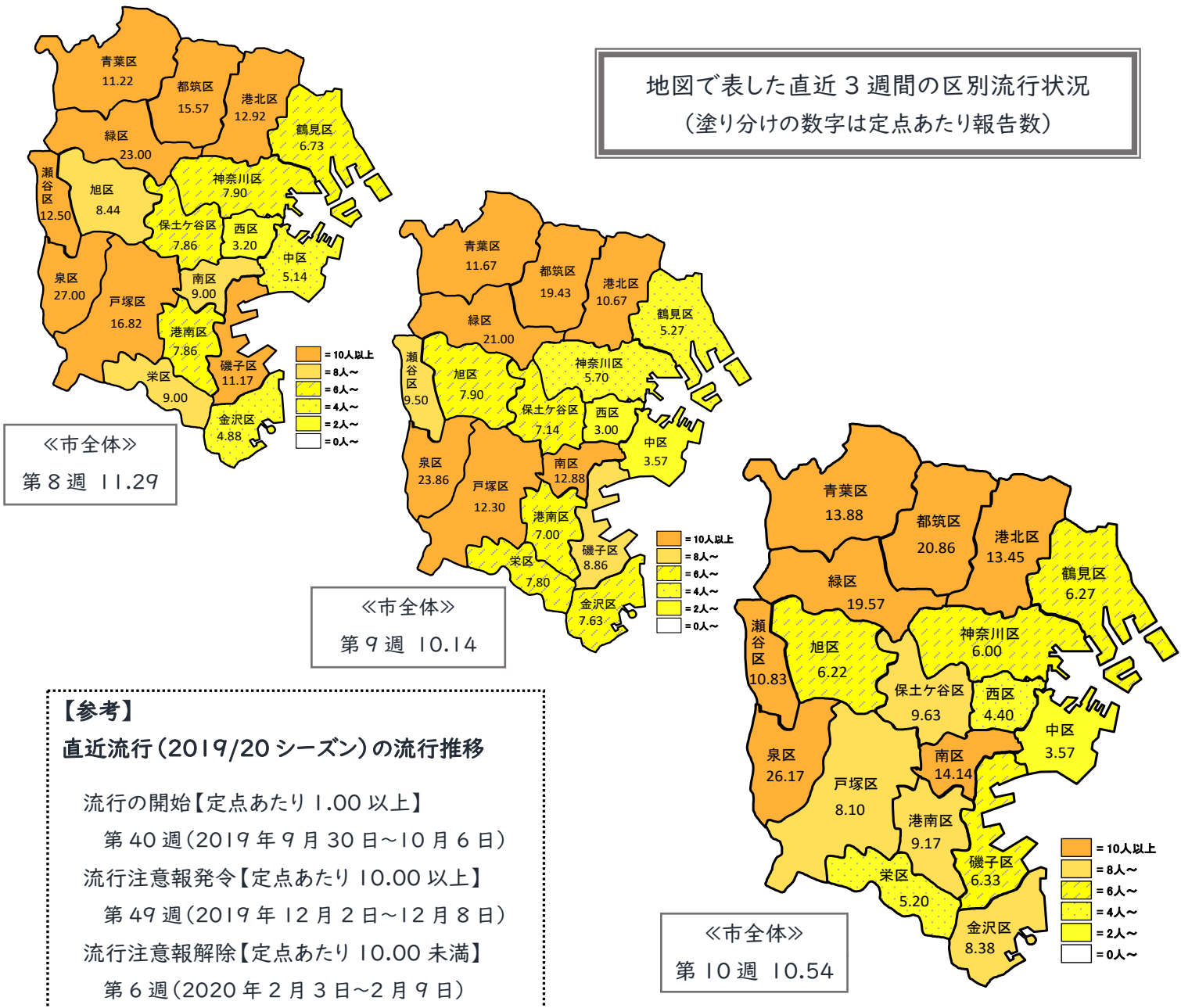
※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

### 【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は 2022 年第 46 週以降増加し、第 51 週で 2.55 となり、流行期に入りました。2023 年第 5 週には 13.07 となり、流行注意報が発令されました。



地図で表した直近3週間の区別流行状況  
(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



【参考】

直近流行(2019/20シーズンの流行推移

流行の開始【定点あたり1.00以上】

第40週(2019年9月30日~10月6日)

流行注意報発令【定点あたり10.00以上】

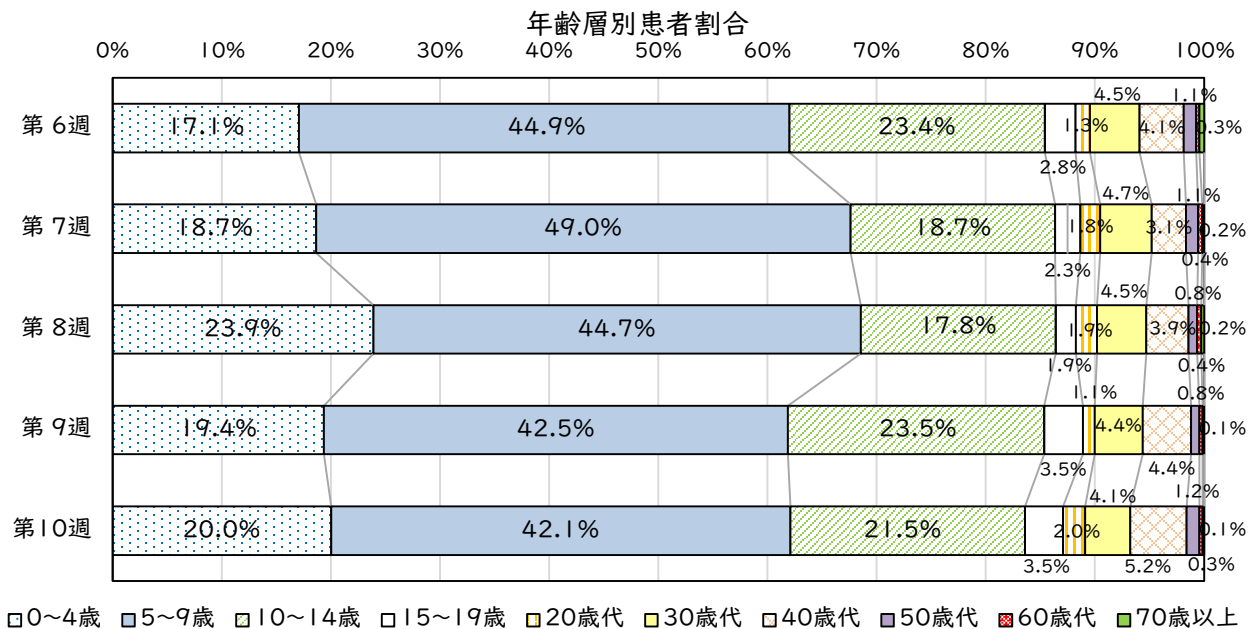
第49週(2019年12月2日~12月8日)

流行注意報解除【定点あたり10.00未満】

第6週(2020年2月3日~2月9日)

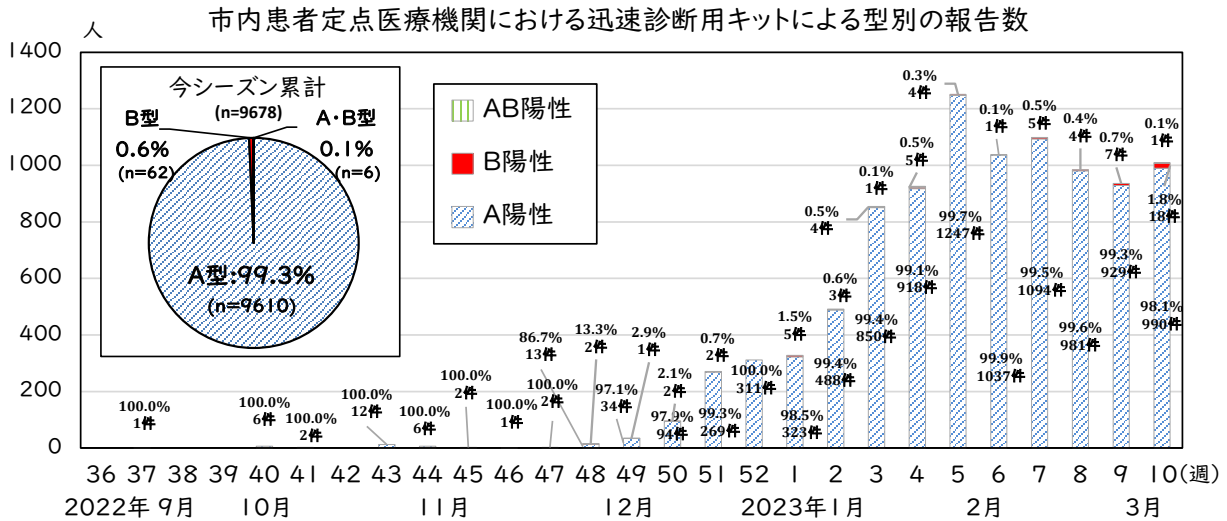
【年齢層別集計】

第10週の患者年齢構成は、10歳未満が62.1%、10歳から15歳未満が21.5%となっており、15歳未満が全体の83.6%を占めています。



【迅速キット結果】

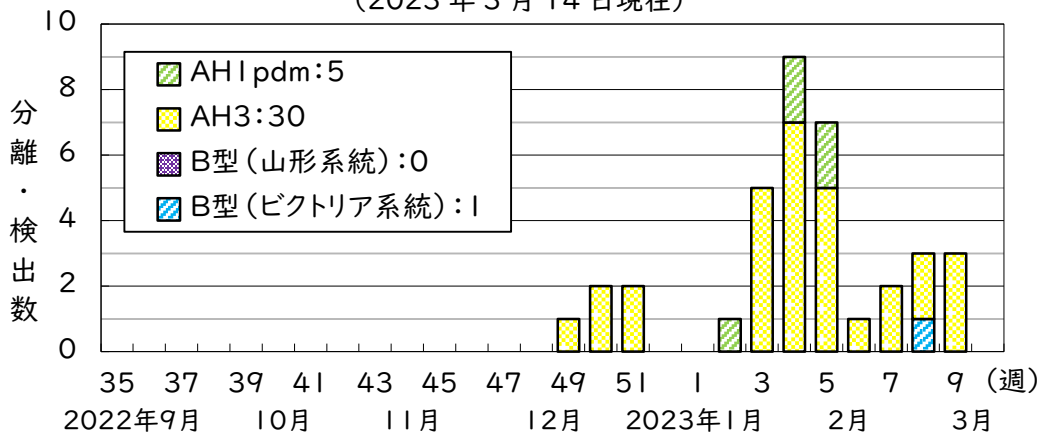
第10週の迅速キットの結果はA型98.1%、B型1.8%、A・B型ともに陽性0.1%で、ほぼA型が占めています。今シーズン累計は、A型99.3%、B型0.6%、A・B型ともに陽性0.1%です。



【市内病原体検出状況】

市内では病原体定点<sup>※6</sup>から、A/H1pdmが5株、A/H3が30株、B型(ビクトリア系統)が1株分離・検出されており、全国の分離・検出状況と同様の傾向と考えられます。

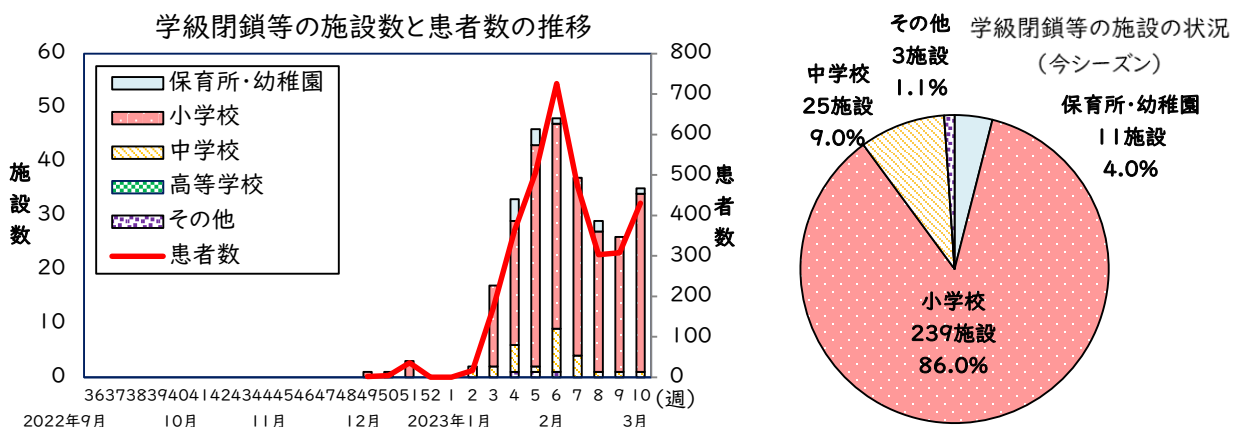
市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況 (2023年3月14日現在)



※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に16か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

【市内学級閉鎖等状況】

第10週は、35件の報告(保育所・幼稚園1件、小学校33件、中学校1件)があり、報告された患者数は430人でした。今シーズンの累計では、第10週までに278件の報告があり、報告された患者数は延べ3,342人となっています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園4.0%、小学校86.0%、中学校9.0%、高等学校0.0%、その他1.1%となっています。

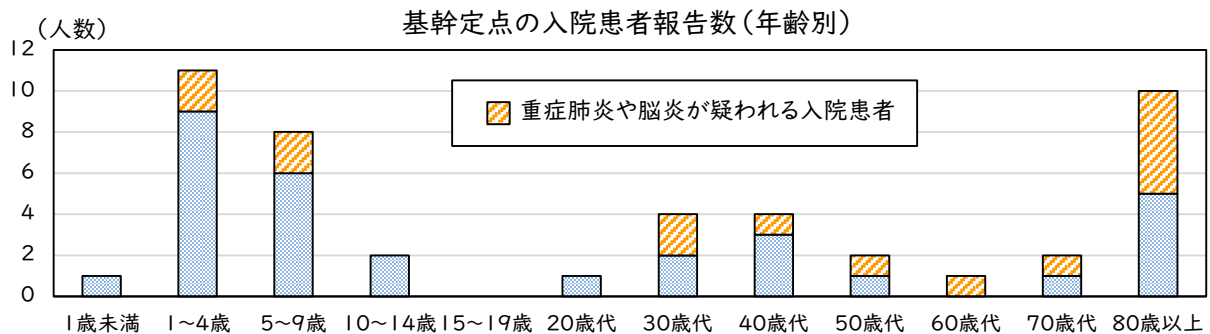
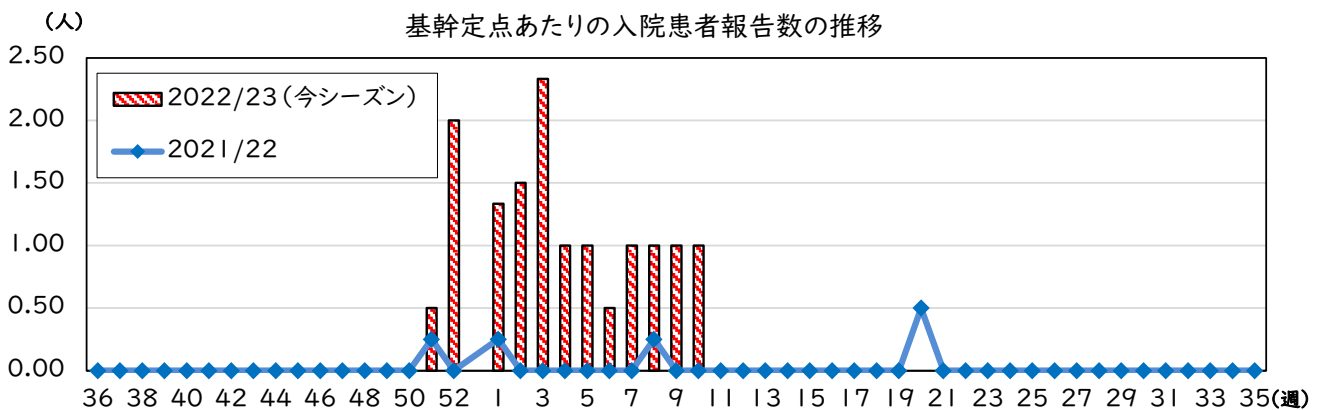


## 【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関<sup>※7</sup>におけるインフルエンザ入院患者は、第10週に3人が報告され、今シーズンは現在までに累計46人（10歳未満20人、10歳代2人、20歳代1人、30歳代4人、40歳代4人、50歳代2人、60歳代1人、70歳代2人、80歳以上10人）が報告されています。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第51週に1人、第52週に1人、第1週に4人、第2週に3人、第3週～第8週は各1人ずつ報告されています。

※7 基幹定点：患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



### <<参考リンク>>

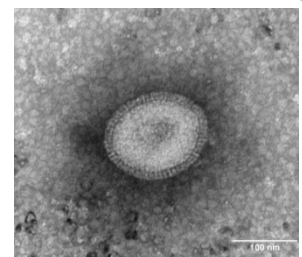
近隣自治体の流行状況  
全国の流行状況

○[神奈川県](#)      ○[川崎市](#)      ○[東京都](#)  
○[国立感染症研究所](#)

※ 追加報告のために、以前お知らせした情報から報告数が更新される場合があります。  
※ 小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。

インフルエンザウイルスの  
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影：  
横浜市衛生研究所



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237  
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463